

平成30年4月4日

校長 平川 恒美

平成30年度 港区立高陵中学校 学校経営計画

I 教育目標と目指す学校像

新学習指導要領の理念を移行期となる学校現場の教育課程に反映させ、新しい時代の担い手を育成する学校の使命を全うするよう、改善を図る。多様性が特徴である公立中学校として生徒の育成を図り、改めて本校地域的特性を考慮した教育目標の内容を実現させる。

新学習指導要領の以下の冒頭部分を特に意識し、現時点では高い水準にある本校で、志ある人材の育成を目指したい。「一人ひとりの生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」その期待に応えられる学校として地域連携を図り、理解・協力を求めていく。

新学習指導要領を踏まえ、港区教育ビジョン(H26.10)の基本理念《すべての人の学びを支え つなぎ生かす》を尊重する。港区学校教育推進計画(H27.2)での目指すべき子どもの姿《夢と生きがいを持ち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する子ども》を、学校・保護者・地域との交流の機会を増やし、意見を取り入れながら追究していく。

理念が実践に結びつくよう、港区研究奨励校指定を活用して校内研究を充実させ、外部からの人材登用を推進する。教員の指導技術の向上を図り、本来有している教員としての志を実現させるよう育成に努力する。生徒・保護者・地域、また広く社会から尊敬され、信頼される質の高い公立中学校の教師集団を目指して学校づくりを推進する。

1 教育目標

- (1) 深く考え、進んで学習する
- (2) 責任を重んじ、規律正しく行動する
- (3) 心身を鍛え、情操を豊かにする

2 目指す学校像

- (1) 確かな学びを展開し、学ぶ喜びを実感できる学校
- (2) 生徒一人ひとりの能力を伸ばし、豊かな心をはぐくむ学校
- (3) 家庭・地域とともに歩む学校

II 中期的目標と方策

地域の児童数が少ない中で生徒数は増加傾向にあり、新入生は3年連続して70名を超えて中一ギャップ対応の3クラスである。高陵アカデミーからの進学者は最近3年間3割ほどで、他地区からの新入生を多く迎える。今年度新入生の出身小学校は20校を数え、多様な生徒への対応が迫られている。様々な教育課題に的確に対応し、指導技術を持つ中堅・若手の育成が喫緊の課題である。港区研究奨励校の指定を活用しながら、教育課程内容の見直しを進め、働き方改革を実現できるよう業務改善を行っていく。また、港区の教育における基本的方向性を踏まえ、継続してきた中期的目標を尊重しながら東京都・港区の新しい施策について対応し、生徒の育成に努力する。

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、課題解決的な活動を充実させ、思考力・判断力・表現力と学び合う力、主体的に学習に取り組む態度を育てる。
- (2) 基本的な生活習慣を定着させるために、家庭・PTAとの意見交流の機会を増やして連携を図り、

確実な学習習慣を確立させる。

- (3) 社会の一員として自己の役割や責任を意識させるために、法やきまりを理解・遵守する規範意識と、進んで貢献しようとする社会参画への意欲や態度を育てる。
- (4) 道徳の教科化に向けての評価方法改善のために、心の教育を推進して道徳的な実践力と豊かな人間性を養い、人権尊重の精神と思いやりの心を育む。
- (5) 体力向上のために、スポーツに親しみ、自ら心身の健康を保持増進しようとする態度を育てるとともに、集団における責任感や連帯感を育む。
- (6) 学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめは人として絶対に許されない行為であるということを徹底させ、いじめを未然防止する体制を校内で一層整備する。
- (7) 自主的に判断し、自ら積極的に行動する態度を育てるために、教師と生徒、生徒相互の温かい人間関係を築き、信頼関係を深める。
- (8) 自己肯定感を高めるため、学級活動や学校行事で、他を尊重した聞く力の育成を重視して他者を尊重する態度を育てるとともに、校内での指導方法の共有を図る。
- (9) 12年間の学びを連続させるために、高陵アカデミーの1幼稚園、2小学校との交流を深め、目指す幼児・児童・生徒の姿を共有して幼・小中一貫教育を推進する。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

1 教科の魅力伝える学習指導の充実

(1) 各教科

○ 指導に当たっては、目標と評価の方法を示し、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、課題解決的な学習や言語活動を意図的・計画的に実施し、生徒の思考力・判断力・表現力を高めるとともに他を尊重する聞く力、コミュニケーション能力を育てる。

(2) 特別の教科 道徳

- 道徳の時間を要として、道徳教育推進教師を中心に、各教科の指導を含めた学校の全教育活動を通じて、基本的人権を尊重する態度を計画的に育成する。
- 自立の精神を尊び、他者と交流・協議する中から、他者を尊重して自主的に考え、自己を律して誠実に実行し、その結果に責任をもつ態度を育てる。
- 公共の精神を尊び、互いの人格を尊重し協力するとともに、自他の生命を尊重する心を育てる。
- 他を尊重して聞く態度を育て、教育相談的な手法や交流する活動を通して、人間関係を築く力やソーシャルスキルを身に付ける。
- 道徳授業地区公開講座では、自他を尊重する態度の育成を重点とした授業を公開し、保護者や地域の理解を得ることで、保護者や地域と連携した道徳教育を推進する。

(3) 特別支援教育

- 特別支援教室の設置と開設に当たり、関係諸機関との連携を取りながら運営に当たる。
- 特別支援教育コーディネーターを中心に、特別な支援を必要とする生徒についての共通理解を図り、関係諸機関と連携し、インクルーシブ教育を推進する。

(4) その他の特色ある活動

ア 言語能力の育成

- 校内での言語活動での指導技術の共有化を図り、各教科・領域で統一した指導を行う。
- リーディングアドバイザースタッフと連携して、朝読書、読書記録、推奨図書「高陵の100冊」などの活動や学校図書館の積極的な活用を促し、読書活動を推進する。

イ 情報活用能力

- タブレット端末、コンピュータやインターネットなどの情報手段を活用して、生徒の学習に対する興味・関心を高めるとともに、ICT機器を活用する能力を向上させる。
- 保護者や関係諸機関と連携してセーフティ教室を実施し、「SNS高陵ルール」に基づき携帯電話やインターネットの使用上のルール等の情報モラルを身に付けさせる。
- ウ 英語検定、漢字検定、数学検定を推奨し、3級以上の合格を目標に取り組みさせる。
- エ 「みなと子どもエコアクション」などの活動を通して環境教育を推進し、4Rなど環境保全に取り組む実践的な態度を育てる。
- オ 高陵アカデミーの幼・小中一貫教育コーディネーターを中心に「MINATO カリキュラム」「小学校入学前教育カリキュラム」に基づく保育研究・授業研究を行い、幼児・児童・生徒の交流及び中1ギャップにも対応する校種の枠を超えた教員の連携を図り、「世界に生きる子供」の育成と「協働」を目指した幼・小中一貫教育を推進する。

2 生活指導の充実

(1) 生活指導・進路指導

- いじめの根絶のために、個の尊重を重視し、いじめはどの集団・生徒にも起こりうるとの共通認識のもと、未然防止のきめ細かな指導と発生時の組織的な対応を徹底する。
- いじめや不登校などの問題を解決するために、スクールカウンセラーや関係諸機関と連携して学校いじめ対策委員会を開催し、教育相談体制の充実を図る。
- 問題の未然防止・早期発見・早期解決に努めるために、全校生徒を対象に相談週間を年4回設け、生徒理解を深めるとともに、情報の共有化を図り、組織的対応を行う。
- 生徒の人権意識を高めるために、人権標語コンテスト、LGBTへの理解などを地域や外部機関と連携して指導に当たる。
- 全教職員が体罰否定の意識をもって、生徒との信頼関係に基づく指導を行う。
- 生徒会活動を中心に生徒の自主的な活動を行わせ、認め合う集団づくりを促進する。
- 言語環境を整え、高陵アカデミーの幼稚園、小学校と連携したあいさつ運動を推進し、さわやかなあいさつが響き合う環境をつくる。
- 授業規律を徹底するため、始終業時のあいさつの礼法を統一する。
- 将来に夢や希望をもって生きることができるよう、「キャリア講話」・職場体験などを通して働くことの意義を理解し、適切に自己の生き方を選択する能力と態度を育てる。
- 地域人材や外部機関を活用したプログラムや「ライフプラン」の作成などを通して、人間関係形成能力・情報活用能力・将来設計能力・意見決定能力を育成する。

(2) 健康・安全・食に関する指導

- 体力向上への意識啓発のため、体育館で実施する体力づくり(昼トレタイム)などを拡充して、心身の健康を保持増進し、オリンピック・パラリンピック教育を充実させる。
- 災害時行動マニュアルに基づき、麻布地区総合支所、消防署や地域と連携した防災訓練を実施することで、生徒の防災についての意識を高め、自ら危険を予測し回避する能力と、地域社会の構成員としての責任を果たす態度を育てる。
- 健全で安心な学校生活を送るために関係諸機関と連携した薬物乱用防止教室、交通安全教室、Jアラート避難訓練などを通して、安全教育を推進する。

3 特別活動・特色ある活動の見直しと深化

(1) 特別活動

- 学級活動ではガイダンスの機能を充実させ、いわゆる中1ギャップに対応し、生徒の学校生活への適応を促して、人間関係を築く力や社会の一員としての自覚を高める。
- 幼児・児童を含めた異年齢集団による交流を推進するために、生徒会活動を通して、生徒の自治意識を高め、ボランティア活動など社会参画への意欲を高める。
- 行事を充実させ、学校への所属感や連帯感を深め、自校を愛する精神を醸成する。
- 規範を遵守する態度と伝統を継承し、よりよい校風を築こうとする態度を育てる。
- 入学式や卒業式においては、その意義を踏まえ国旗を掲揚するとともに、国歌を斉唱し、国際社会において互いの国旗、国歌を尊重する態度を育てる。

(2) 総合的な学習の時間

- 教科等横断的な視点を各教科で習得した知識・技能を相互に関連付けながら探究活動を行い、地域・保護者との交流の機会を設定し、思考力・判断力・表現力等を育てる。
- 社会に開かれた教育課程の実現をめざし、世界的な問題や課題への興味・関心を高め、将来にわたって積極的に課題を解決しようとする能力や態度を育てる。
- 目的を明らかにした体験活動、地域人材や外部機関を活用した学習を通して、自己の将来を力強く着実に切り拓いていこうとする資質や能力、態度を育てる。

(3) オリンピック・パラリンピック教育

- オリンピック・パラリンピック教育を通して、障害者理解を重点とする体験活動等からその精神やスポーツ・文化・生き方について考え、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に主体的に関わる態度を育てる。

(4) 国際理解教育

- 大使館・大学等の地域人材を活用した「国際理解学習」を実施し、異文化を理解し尊重する態度を育てる。
- 国際理解を推進するために、各教科や領域等で日本や諸外国の生活や文化の違いを正しく理解するとともに、尊重する態度を育てる。
- 「日本文化体験」「古典芸能鑑賞教室」「百人一首大会」などの活動を通して、日本の伝統や文化を尊重する態度を育てる。

4 学校運営

- (1)教育課程を見直して昨年度から土曜授業日を減じたが、ほぼすべての土曜日や学校公開期間を中心に保護者や地域住民に教育活動を公開する機会を設定する。
- (2)学校だよりやHPを通じて学校からの情報発信を行い、学校、保護者、地域の相互信頼感を深化させる。
- (3)地域の教育力を学校教育に活かし、生徒、保護者、教職員が地域と積極的に交流し、相互に連携・協力した教育活動を推進する。
- (4)高陵アカデミーの幼稚園、小学校との授業や学校行事等への積極的な参加を促し、小中一貫教育コーディネイターを中心とした学校間の連携強化に努める。
- (5)教育公務員としての服務規律を遵守し、法令や判例を示す等して信用失墜行為のないよう、サービスの厳正に努める。
- (6)特別支援教育への理解を深め、生徒の行動への視点・観点を広げられるよう指導技術の充実を図り、生徒指導と保護者対応の具体的方策を外部と連携して進める。
- (7)PDCA サイクルに基づいた学校運営のために、教育活動を常時公開し、アンケートでの学校評価や保護者・学校評議員・地域、生徒からの意見を反映する。